

大学の世界展開力強化事業  
令和6(2024)年度採択  
令和7(2025)年度フォローアップ結果  
～EU諸国等との大学間交流形成支援～

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

令和8(2026)年3月30日

独立行政法人 日本学術振興会

## フォローアップの総括

事業開始初年度となる2024年度は、実渡航前に、オンラインを活用した国際協働学習等を積極的に行い、1年目ながら計画以上の渡航を達成したプログラムも多く見受けられた。また、セミナー等の修了後に学生へのアンケートを行うなど、適切な評価の仕組みの構築に向けた取組も見受けられ、今後の交流プログラムのさらなる展開と交流推進へ期待したい。

なお、このフォローアップは、大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、採択プログラムにおける円滑な事業実施の支援や成果の還元のため、各取組の進捗状況等を確認することを目的に実施しているものである。

計画の進捗状況や設定した達成目標に対する実績(派遣・受入学生数)等を、取組内容の進捗状況および調査票によりフォローアップの上、各事業から提出された特記すべき事項を取りまとめた。

## <タイプA: 交流型>

### 【EU-A01 山形大学】 《スマート農林業のためのダブルディグリープログラム網の構築》



日本語かるた大会(2024.12.21)



月例交流イベント(2025.6.10)

山形大学の有志の日本人学生で形成された『留学生サポーター』が、プログラムの参加学生を含む外国人留学生と日本人学生、そして地域住民を巻き込んだ国際交流を行っている。国際交流スペースを設置した以降は、同スペースを活用した交流イベントも頻繁に開催している。今後は更なる学内の国際交流の促進が期待される。

### 【EU-A02 筑波大学】 《ナノ・量子・情報・生命分野融合の国際連携教育プログラム》

- グルノーブル・アルプ大学とユトレヒト大学の教員による特別講義を実施した。
- グルノーブル・アルプ大学の通常の講義の中で筑波大学教員が一コマ分の講義を担当した。
- 専属コーディネーターと大学院教務担当が、グルノーブル・アルプ大学、ボン大学、ルール大学ボーフムを訪問した。
- 2025年4月システム情報工学研究群とルール大学ボーフム Master of Science program in Applied Computer Scienceとの間で修士DDPに係る協定を締結した。
- 筑波大学学生向けに本事業のオンライン説明会を開催した。その中で、留学を経験した学生に体験談を話して貰い、留学の魅力・意義をアピールした。



<オンライン説明会のポスター>

# 【EU-A03 東京海洋大学】

## 《日・北欧連携国際協働教育「海洋の未来を創造する高度専門技術者」養成プログラム》



〈キックオフ・オンライン研究シンポジウムの様子〉

### ▶ キックオフ・オンライン研究シンポジウムの開催

2025年2月北欧の協定校である南デンマーク大学、デンマーク工科大学、ノルウェー科学技術大学、ノルウェー北極大学、スタバングル大学(ノルウェー)、ノード大学(ノルウェー)の6大学とMETISプログラムキックオフをオンラインにて開催した。

東京海洋大学の研究戦略の主要な4分野(①水産業の持続的発展、②海洋エネルギー・海底資源開発、③次世代船舶・運航管理技術、④海洋環境・気候変動、海洋観測)に基づく研究紹介を実施した。7大学それぞれの大学の概要と特色、研究環境や内容を紹介した。

東京海洋大学を含む各大学から学生・教職員が約60名参加。学生にとっては本プログラムの参加実現に向けた、研究者にとってはMETISを軸に研究者同士の連携が一層図られ、研究ユニットの構築につながる貴重な機会となった。



〈オンライン授業でのアクティブラーニング教授法ミニシンポジウムの様子〉

### ▶ オンライン授業でのアクティブラーニング教授法ミニシンポジウムの開催

2025年3月日本・北欧の専門家3名(関西大学・スタバングル大学・ノルウェー北極大学)を招へいし開催し、アクティブラーニングの効果、方法、事例等を紹介するミニシンポジウムを、東京海洋大学FDの一環として実施した。

学生・教職員あわせ対面合わせ21名の参加があり、発表のみでなく実践的なグループワークも行った。参加教員は、本ミニシンポジウムでの学びを活かして、2025年6月には、北欧の協定校6大学と東京海洋大学共催の1週間程度の「アクティブラーニングによる分野横断型オンライン合同授業」を実施した。

### ▶ 外部テストによる(GPS-Academic)学習成果の客観評価導入

本プログラムが目指す人材が身に着ける能力を客観評価で可視化する仕組みを構築した。具体的には、ディプロマポリシーの達成度を評価するテストとして開発されたGPS-Academicを本プログラムの派遣学生に対し派遣前、派遣後に実施した。

可視化した学習成果により、派遣前に、本人による得意・不得意傾向の把握、出発前の事前面談サポート等での活用、学生サポートの観点からの心配りや目配りが必要な学生の把握など、学内のリスク管理に役立てることが出来た。

また、派遣後は、キャリア形成に役立つディプロマサプリメントの提供、留学後のカウンセリングの実施やプログラムの改善に役立てる。

新・社会人基礎力	大項目	測定項目	下位項目	METISにて養成する人材像で重視する項目
考え抜く力	思考スキル(考え抜く力) ~Partnership for 21st Century Skills (21世紀社会で活躍するための必要なスキル)	思考力総合スコア (問題を解決する思考スキル)	批判的思考力 協働的思考力 創造的思考力	新たな価値創造 ビジョン提示能力
チームで働く力	姿勢・態度 (他者と関わり合いながら働く力)	レジリエンス (精神的なタフさ)	ストレス耐性 回復力 自己制御力	
前に踏み出す	経験総合 (前に踏み出す経験)	経験総合	自主性、率先性 チャレンジ精神、開放性 持続力、誠実性、動機性	異分野間コミュニケーション力 チームワーク力
			外向性、親和性	高度な知識獲得 課題の設定能力
			自己管理 対人関係 計画・実行	

〈METISプログラムと関連コンピテンシー測定マトリクス〉



〈トビタテ! 留学JAPAN  
新・日本代表プログラム壮行会にて〉

## 【EU-A04 金沢大学】

### 《日本とEU諸国の先端科学の展開に向けた数物科学を牽引する人材育成プログラム》



〈キックオフシンポジウム〉

#### キックオフシンポジウム(2025年3月18日実施)

事業のキックオフシンポジウムを開催した。交流相手校から教員を招へいし、チェコ工科大学、レーゲンスブルク大学(ドイツ)、カールスタッド大学(スウェーデン)、アイントホーフェン工科大学(オランダ)各大学の概要や研究、金沢大学とのこれまでの学生交流に関する取組、本事業における計画等について講演いただいた。

金沢大学学長・理事・副学長とも歓談の機会を持ち、大学間における今後の更なる協力関係について確認する良い機会となった。

また、金沢大学から留学を考えている学生に対して強いメッセージを発信することができた。当日は約70人が参加し、学生が交流プログラムに関心を持つきっかけとなり、2025年度のプログラム参加につながった。



〈ミニキックオフイベント〉

#### ミニキックオフイベント(2025年1月30日実施)

レーゲンスブルク大学との交流ミニキックオフイベントを学内で実施した。

交換留学制度のもと、金沢大学自然科学研究科数物科学専攻物理学コースに滞在していた学生レーゲンスブルク大学物理学科の大学院生)が、レーゲンスブルク大学修士課程の科目履修、学生生活などについて紹介し、金沢大学教員、学生が参加した。

レーゲンスブルク大学への留学に関する期待の高さが伺えたとともに、留学を計画している学生にとっては事前準備をする上での貴重な機会となった。

#### 海外連携大学の追加

2025年3月に金沢大学教員がスイス バーゼル大学物理学科を訪問し、修士学生の交換短期留学の可能性について討議した。本事業の海外連携大学を当初予定の4大学からEU内の他の大学へも拡大し、学生を交えた交流を広げることを計画している。



〈特別講義〉

#### レーゲンスブルク大学Franz Giessibl教授を招へい

2025年7～8月に、原子間力顕微鏡分野の世界的権威であるFranz Giessibl教授を招へいした。学生交流プログラム実施の調整を進めるとともに、金沢大学学生への現地滞在に関する情報提供、2025年度に交流プログラム参加者としてレーゲンスブルク大学へ派遣予定の学生への事前指導を行った。また、特別講義、公開セミナー“Observing dents in the atom”を実施した。

# 【EU-A05 ○豊橋技術科学大学、東京科学大学】

## 《グリーンイノベーション社会を牽引するグローバル半導体人材育成プログラム》

- 日欧大学間の人的ネットワーク強化による主な成果として、2025年3月5日に、海外連携大学であるトロワ工科大学(フランス)にて 本事業の説明会を開催し、40名のトロワ工科大学生が参加した。
- 現地でのトロワ工科大学の教職員との打合せや、学生からの要望を受け、受入学生が日本でインターシップの機会を得られるようなプログラムの将来的な内容充実・質の向上に向けて、方向性を広げることができた。



〈トロワ工科大学、フランスにて本事業の説明会を実施。40名の学生が参加〉

### CALL FOR PARTICIPANTS



**GREEN INNOVATION in SEMICONDUCTORS (GIS) PROGRAM**

This program aims to develop *Global Green Electronics Innovators* who can lead the development of green semiconductors for the next 20 years, by acquiring next-generation semiconductor integrated circuit technology for leading a sustainable and green society, and by sharing an awareness of the global environment as a universal value for humanity in a global network.

**MEXT**  
The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), JAPAN  
**Inter-University Exchange Project 2024 - 2028 \***

**REGISTER HERE**

**GIS Program**  
(Non-Credit Courses during Fall Semester)  
• Collaborative Integrated Circuits Training at LSI Fab. (November - December)  
• Internship at Japanese Company (TBA)  
(Online Program)  
• Online Exchange Seminar (TBA)

**(a) Special Audit Student**  
(Fall Semester Courses (October-March), Master Level)  
• Semiconductor Physics 1  
• Material Science for Electronics 2  
• Culture and Communication I  
• Principles of Japanese Grammar  
• Japanese Industrial Technologies and Innovations  
Total: 10 CREDITS

**(b) Special Research Student**  
Visiting students who wish to do their research (Master/Doctoral level, 3 month - 1 year).  
Research Group List  
- Nano-Quantum Opto-Electronics Group  
- Integrated Photonic Device Group  
- Integrated Biosensor and MEMS Group

**Accommodation:** On-campus accommodation (>15,000 yen/month + initial fees) (International House) is available for program students.  
**Fees:** Applicants from the partner university are eligible for admission and tuition fee waivers.  
**Scholarships:** JASSO scholarship (80,000 yen/month) for students who have difficulty in pursuing their study abroad for financial reasons, will be announced during application phase.

\* "Semiconductor Vanguard Driving Green Innovation Society": \*List of partner university in proposal: Toyohashi University of Technology(Japan), Tokyo Institute of Technology (Japan), The Technical University of Madrid (Spain), University of Technology of Troyes (France), University of Ulm (Germany), University of Sheffield (UK)

**Institute for Research on Next-generation Semiconductor and Sensing Science (IRES<sup>2</sup>)**

**The LSI Fab.** is one of the top facilities in the world for engaging in all processes related to integrated semiconductor circuits, sensors, and microelectromechanical systems (MEMS), from design to manufacturing and operational characterization.  
Equipment: Computer aided system for LSI, MEMS and other semiconductor devices design, Lithography, CMOS-IC, MEMS fabrication equipment (max 4inch wafer), Packaging, measurement and observation equipment.

**Collaborative Integrated Circuits Training at LSI Fab.**  
The purpose of this training is to understand each step of the MOS process (the relationship between planar structure and cross-sectional structure, etc.), learn the flow of all steps and the physicochemical interrelationships, and acquire a bird's-eye view of the integrated circuit process.

**TUT at a glance**

**Master technology, Create technology**

**Field of Study**  
1. Mechanical Engineering  
2. Electrical and Electronic Information Engineering  
3. Computer Science and Engineering  
4. Applied Chemistry and Life Science  
5. Architecture and Civil Engineering

**GO TO THE FUTURE**

**50th Anniversary 2025**

Established	1976	Students in total	2,090
Type	National	Undergraduate students	1,192
President	National Akihiro Wakahara	Master's Program	812
		Doctoral Program	86
		International students	214

(As of May 1st, 2024)

**Toyohashi City is located in the central part of Japan**

〈海外連携大学に向けた留学説明会資料〉

# 【EU-A06 京都工芸繊維大学】

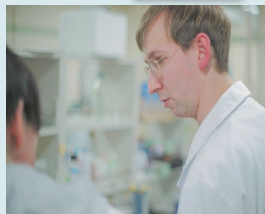
## 《3×3教育制度の活用によるグローバルな次世代マテリアル人材育成プログラム》

### ○ 学生交流における確かな手ごたえ

プログラムに参加した学生からは、自身の研究に対して異なる観点からのアドバイスを得たり、新たな手法を学んだりするなど研究を前進させる機会となった、研究への情熱が増したといった報告があった。より長期の留学を希望する者、博士課程進学後も研究交流を継続する意向の者もみられ、プログラムの意図が学生にしっかり伝わっていることが確認できた。

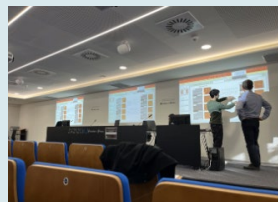
### 参加学生の声

受入



京都工芸繊維大学滞在中、研究を通して、論文の成果だけでなく大きな成長を得ました。異文化交流や他の研究者との比較も有益で、日本の環境は探究心をさらに高めてくれました。再び日本語を学んで戻りたいと思います。 〈ベニス大学・修士3年〉

派遣



バレンシア大学で、日本とは異なる装置構成やプロセスに触れることで、専門知識を深めるとともに、研究者とのネットワークも広がりました。教科書では得られない実践的な学びと、博士後期課程を見据えた貴重な経験となりました。 〈京都工芸繊維大学・修士2年〉

### ○ 京都を拠点とするグローバル企業との連携

京都・奈良地域の産学連携ネットワーク「京都クオリアフォーラム」において本学の取組を紹介し、事業の周知を図った。また、本事業外部評価委員にフォーラム会員企業のうち2社から就任いただくこととなった。このように、京都工芸繊維大学が有する産学連携のスキームを活用し、企業側の期待や視点を踏まえた事業実施を可能とする体制を構築した。



### ○ 学内横展開

JoinTECH Laboratory主宰教員以外にも本事業への参画を呼びかけ、近隣の研究室や事務職員も含めた“面”での交流を進めた。



## 【EU-A07 岡山大学】

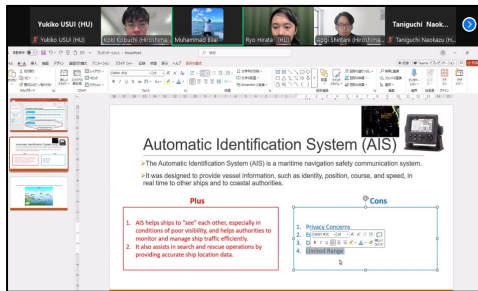
### 《生殖環境科学を通してWell-beingに寄与する日欧先駆人材育成プログラム》

プログラム終了時に学生および受入・派遣元指導教員に実施したアンケートによると、プログラム終了後、自分の文化的背景の異なる場所・仲間とでも、リーダーシップを取ることができるようになるなど、国際的なチームでの行動時の姿勢・スキルに明確な改善が見られた。加えて、専門分野、非専門分野問わず多くの知見を得たことで、学業面での明確なモチベーション向上が見られた。



## 【EU-A08 広島大学】

### 《日・欧州の海洋経済安全保障と持続可能性を支えるAI次世代人材育成プログラム》



〈オンラインセミナーでのグループワークの様子〉



〈デジタルバッジ〉

- 2024年度の学生交流はオンラインセミナー形式で実施し、ベニス大学(イタリア)、グラーツ大学(オーストリア)、世界海事大学(スウェーデン)、バスク大学(スペイン)、ライプツィヒ大学(ドイツ)の提携大学5大学すべてから当初目標の10名を上回る16名の学生が参加した。広島大学からも12名が参加し、目標値13名にほぼ達した。
- 参加学生には海洋・海事分野の大学院生のみならず、他分野の大学院生や学部生も含まれ、異なる専門性やバックグラウンドを持つ学生間で活発なディスカッションが行われた。これにより、学際的な視点の獲得や多様な考え方への理解の促進が図られるとともに、多様な学生に本事業や海外留学への関心を喚起する機会となった。
- 修了後にはアンケートを実施して次回実施に向けたフィードバックを収集した。アンケートでは、全員が留学(実渡航)への意欲が高まったと回答した。修了者には、デジタルバッジを発行し、学習者の達成状況の可視化や質保証に資する取り組みとなった。

University	HU	Ca' Foscari	UPV/EHV	Graz	Leipzig	WMU
Target	13	2	2	2	2	2
Achievement	12	3	3	1	8	1

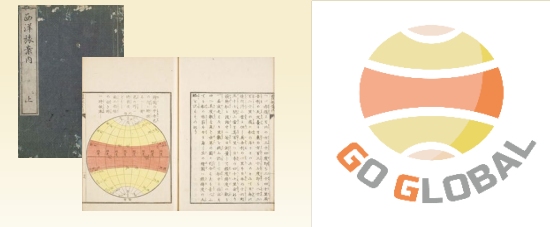
## 【EU-A09 慶應義塾大学】

### 《日欧が相補的に提供するLearning Agreement型国際共同学位プログラム》

本事業を推進するにあたりロゴマークを制作した。このロゴマークは、慶應義塾の創立者である福澤諭吉の著書「西洋旅案内」にある地球図をモチーフとしており、今後、学生たちに国際プログラムや留学をエンカレッジする事業や、大学の世界展開力強化事業に関連するイベント、事業等で使用し、留学や本事業の認知度向上を図る。本マークを使用した宣伝マテリアルや留学促進グッズを作成し、2024年3月開始の新学年オリエンテーション、6月実施の留学フェア等の機会に、配付・紹介を行い、学生の関心喚起・検討促進の成果が得られた。

留学制度や体験談、準備などを紹介するインタラクティブ動画「世界へすゝめ」([https://picree.jp/orders/keio\\_st/](https://picree.jp/orders/keio_st/))を制作、公開した。留学準備・留学の種類・現地での生活・就職活動など約30本の動画を制作し、視聴者が興味により関連リンクを選択できるインタラクティブ動画形式とした。特に大学生が関心を持ちやすい工夫を取り入れ、幅広い層の興味を喚起することが期待される。8名の留学経験者による体験談に加え、修了後5年以上のキャリアを積んだ修了生のインタビューを実施し、留学経験が国際エンジニア、専門官、研究者としてのキャリアにどのように結びついたかを紹介している。高校生や大学低学年の学生が長期的な視点に立って、留学への動機を育めるよう設計した。これにより、時間や場所の制約を受けず、オンデマンドで留学紹介が可能となった。

日本人学生派遣のための学内外の奨学金の充実を図った。独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度において約20名支援枠を獲得したことに加え、2024年に学内に設置した「石井良明人材育成奨学金」において、理工学部における奨学生はDDP派遣生を対象とすることを決定した。2024年度に円安の影響を受けた派遣中のDDP生へ特別支援金を支給するとともに、2025年度DDP派遣予定生5名に対して学費相当の支援を決定した。



(「西洋旅案内」の図をモチーフとしたロゴマーク)



(約30本の動画を収録したインタラクティブ動画)

# 交流学生の実績

## 交流プログラムで留学した日本人学生数(派遣学生数)について

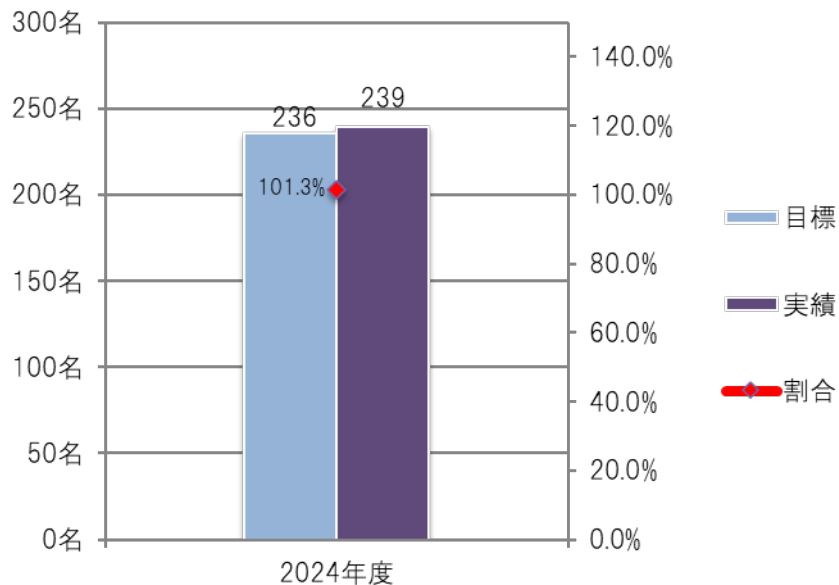
※個別派遣学生数の詳細は別表1を参照

### <全体の状況>

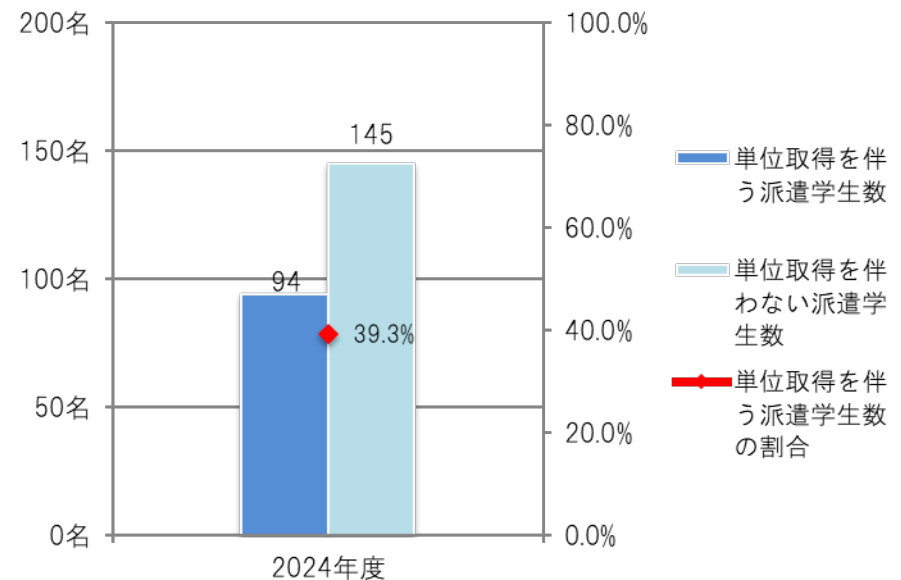
初年度である2024年度は、目標236人に対して実績239人を達成し、目標を上回り、達成率は101.3%となった。

また、全派遣学生数において単位取得を伴う学生の割合は約4割となっており、受入学生よりやや低い水準となった。

達成目標に対する実績の割合(派遣)



単位取得を伴う派遣学生数



# 交流学生の実績

## 交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)について

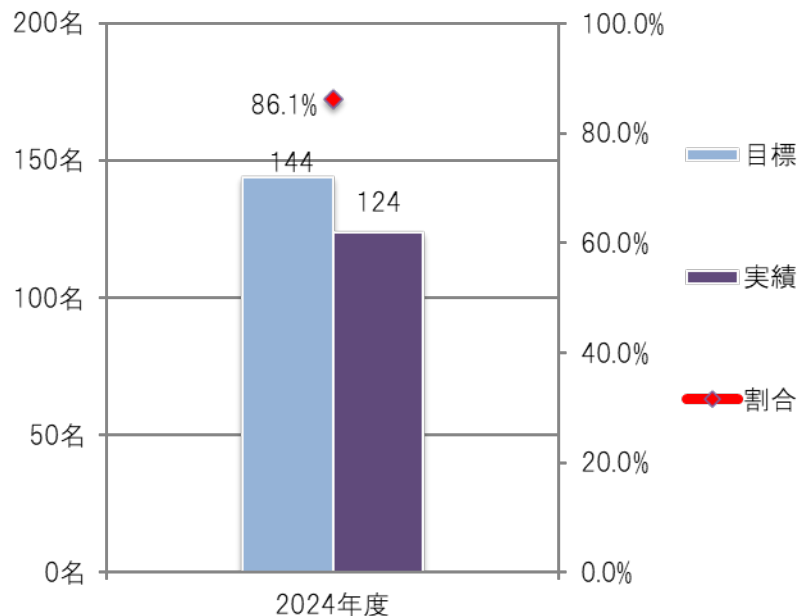
※個別受入学生数の詳細は別表2を参照

### <全体の状況>

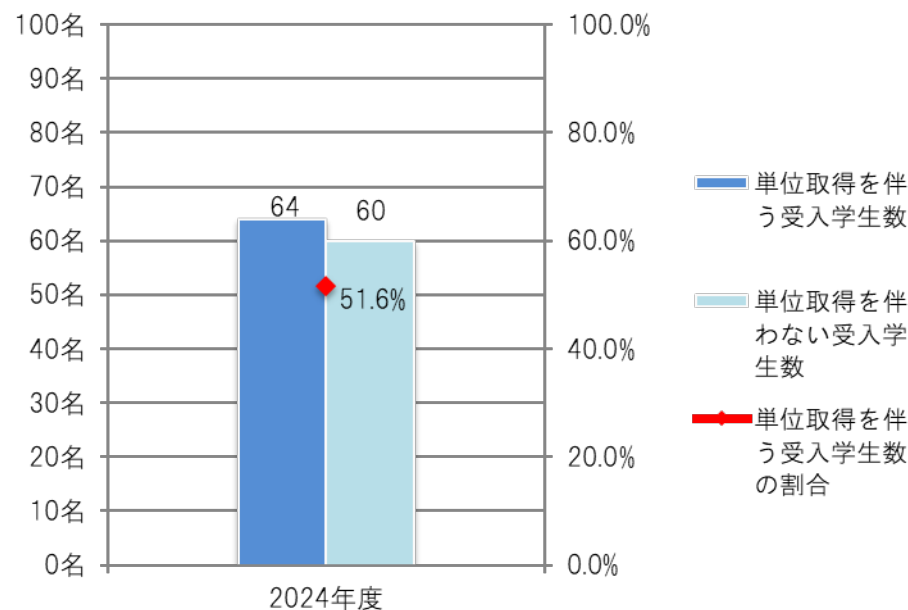
事業開始初年度ということもあり、準備期間にあてた大学もあったため、全体としては当初の計画を下回ったが、半数以上の大学が初年度から当初の計画を上回っている。

また、実績124名となっており、全受入学生のうち5割が単位取得を伴う留学を経験した。

達成目標に対する実績の割合(受入)



単位取得を伴う受入学生数



別表1: プログラムごとの派遣学生数(2024年度採択)

主な 交流先	タイプ	大学名	事業名	取 組 年 度	合計人数		達成目標 に対する 実績の 割合 (%)	(内訳)																			
					目標 (計)	実績 (計)		単位取得を伴う派遣学生数						左記以外の派遣学生数													
								30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上									
								目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績								
E U	タイプ A	山形大学	スマート農林業のためのダブルディグリープログラム網の構築	2024	20	21	105.0	20	21	18	19	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
				2025	39	0	0.0	39	0	35	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
				2026	44	0	0.0	44	0	38	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				2027	44	0	0.0	44	0	32	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				2028	44	0	0.0	44	0	31	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	191	21	11.0	191	21	152	19	0	0	39	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	筑波大学	ナノ・量子・情報・生命分野融合の国際連携教育プログラム	2024	21	9	42.9	4	7	0	0	2	4	5	17	2	17	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2025	77	0	0.0	42	0	34	0	1	0	7	0	35	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2026	83	0	0.0	48	0	34	0	6	0	8	0	35	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2027	93	0	0.0	56	0	35	0	10	0	11	0	37	0	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2028	93	0	0.0	56	0	35	0	10	0	11	0	37	0	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	367	9	2.5	206	7	138	0	27	2	41	5	161	2	161	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	東京海洋大学	日・北欧連携国際協働教育「海洋の未来を創造する高度専門技術者」養成プログラム	2024	2	3	150.0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	
			2025	18	0	0.0	13	0	10	0	0	0	3	0	5	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	
			2026	26	0	0.0	18	0	12	0	0	0	6	0	8	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	
			2027	26	0	0.0	18	0	12	0	0	0	6	0	8	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	
			2028	26	0	0.0	18	0	12	0	0	0	6	0	8	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	
	計	98	3	3.1	67	0	46	0	0	0	21	0	31	3	14	0	17	3	0	0	0	0	0	0	0		
	金沢大学	日本とEU諸国の先端科学の展開に向けた数物科学を牽引する人材育成プログラム	2024	14	7	50.0	14	7	10	2	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2025	34	0	0.0	28	0	23	0	4	0	1	0	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2026	35	0	0.0	29	0	23	0	3	0	3	0	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2027	36	0	0.0	30	0	23	0	1	0	6	0	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2028	36	0	0.0	30	0	23	0	1	0	6	0	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	155	7	4.5	131	7	102	2	13	5	16	0	24	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	○豊橋技術科学 大学、東京科学大 学(旧 東京工業大 学)	グリーンイノベーション社会を牽引するグローバル半導体人材育成プログラム	2024	102	118	115.7	0	0	0	0	0	0	0	102	118	100	117	2	1	0	0	0	0	0	0	0	
			2025	111	0	0.0	10	0	0	0	0	0	10	0	101	0	100	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
			2026	112	0	0.0	11	0	0	0	0	0	11	0	101	0	100	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
			2027	112	0	0.0	11	0	0	0	0	0	11	0	101	0	100	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
			2028	112	0	0.0	11	0	0	0	0	0	11	0	101	0	100	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
	計	549	118	21.5	43	0	0	0	0	0	43	0	506	118	500	117	2	1	4	0	0	0	0	0	0		
	京都工芸繊維大 学	3×3教育制度の活用によるグローバルな次世代マテリアル人材育成プログラム	2024	8	8	100.0	8	8	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2025	17	0	0.0	17	0	12	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2026	18	0	0.0	18	0	12	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2027	18	0	0.0	18	0	12	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2028	18	0	0.0	18	0	12	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	79	8	10.1	79	8	56	8	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	岡山大学	生体環境科学を通してWell-beingに寄与する日欧先端人材育成プログラム	2024	21	4	19.0	21	4	15	2	3	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2025	59	0	0.0	59	0	45	0	6	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2026	74	0	0.0	74	0	60	0	6	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2027	74	0	0.0	74	0	60	0	6	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2028			44	0	0.0	44	0	30	0	6	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
計	272	4	1.5	272	4	210	2	27	2	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
広島大学	日・欧州の海洋経済安全保障と持続可能性を支えるAI次世代人材育成プログラム	2024	13	12	92.3	0	0	0	0	0	0	0	13	12	13	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		2025	23	0	0.0	10	0	5	0	0	0	5	0	13	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		2026	28	0	0.0	15	0	5	0	5	0	5	0	13	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		2027	23	0	0.0	10	0	5	0	0	0	5	0	13	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		2028	28	0	0.0	15	0	5	0	5	0	5	0	13	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
計	115	12	10.4	50	0	20	0	10	0	20	0	65	12	65	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
慶應義塾大 学	日欧が相補的に提供するLearning Agreement型国際共同学位プログラム	2024	35	57	162.9	30	47	15	31	5	3	10	13	5	10	5	10	0	0	0	0	0	0	0	0		
		2025	65	0	0.0	50	0	35	0	5	0	10	0	15	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		2026	70	0	0.0	55	0	40	0	5	0	10	0	15	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		2027	90	0	0.0	65	0	45	0	5	0	15	0	25	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		2028	100	0	0.0	75	0	50	0	5	0	20	0	25	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
計	360	57	15.8	275	47	185	31	25	3	65	13	85	10	85	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
総計				2024	236	239	101.27	97	94	66	62	12	12	19	20	139	145	135	141	4	4	0	0	0	0	0	
				2025	443	0	0	268	0	199	0	16	0	53	0	175	0	171	0	3	0	1	0	0	0	0	0
				2026	490	0	0	312	0	222	0	25	0	65	0	178	0	173	0	4	0	1	0	0	0	0	0
				2027	516	0	0	326	0	224	0	22	0	80	0	190	0	185	0	4	0	1	0	0	0	0	0
				2028	501	0	0	311	0	198	0	27	0	86	0	190	0	185	0	4	0	1	0	0	0	0	0
				計	2186	239	10.9332	1314	94	909	62	102	12	303	20	872	145	849	141	19	4	4	0	0	0	0	0

別表2:プログラムごとの受入学生数(2024年度採択)

(単位:人)

主な 交流先	タイプ	大学名	事業名	取組 年度	合計人数		達成目標 に対する 実績の 割合 (%)	(内訳)																		
					目標 (計)	実績 (計)		単位取得を伴う派遣学生数						左記以外の派遣学生数												
								(計)		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上				
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績									
E U	タイ プ A	山形大学	スマート農林業のためのダブルディグリープログラム網の構築	2024	27	31	114.8	27	20	25	18	0	0	2	2	0	11	0	11	0	0	0	0	0		
				2025	49	0	0.0	49	0	43	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
				2026	57	0	0.0	57	0	51	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				2027	73	0	0.0	73	0	62	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				計	283	31	11.0	283	20	246	18	0	0	37	2	0	11	0	11	0	0	0	0	0	0	0
	筑波大学	ナノ・量子・情報・生命分野融合の国際連携教育プログラム	2024	21	9	42.9	4	9	0	0	0	0	4	9	17	0	17	0	0	0	0	0	0	0		
			2025	83	0	0.0	83	0	34	0	7	0	7	0	35	0	35	0	0	0	0	0	0	0		
			2026	88	0	0.0	88	0	34	0	11	0	8	0	35	0	35	0	0	0	0	0	0	0		
			2027	94	0	0.0	94	0	57	0	35	0	11	0	11	0	37	0	37	0	0	0	0	0		
			計	380	9	2.4	219	9	138	0	40	0	41	9	161	0	161	0	0	0	0	0	0	0		
	東京海洋大学	日・北欧連携国際協働教育「海洋の未来を創造する高度専門技術者」養成プログラム	2024	0	3	-	0	2	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0		
			2025	18	0	0.0	15	0	12	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0		
			2026	25	0	0.0	21	0	15	0	0	0	6	0	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0		
			2027	25	0	0.0	21	0	15	0	0	0	6	0	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0		
			計	93	3	3.2	78	2	57	0	0	0	21	2	15	1	0	0	15	1	0	0	0	0		
	金沢大学	日本とEU諸国の先端科学の展開に向けた数物科学を牽引する人材育成プログラム	2024	6	6	100.0	6	3	5	0	1	0	0	3	0	3	0	2	0	0	0	0	0	1		
			2025	24	0	0.0	18	0	14	0	4	0	0	0	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0		
			2026	25	0	0.0	19	0	14	0	2	0	3	0	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0		
			2027	26	0	0.0	20	0	14	0	2	0	4	0	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0		
			計	107	6	5.6	83	3	60	0	13	0	10	3	24	3	24	2	0	0	0	0	0	1		
	〇豊橋技術科学 大学、東京科学大 学(旧 東京工業大 学)	グリーンイノベーション社会を牽引するグローバル半導体人材育成プログラム	2024	15	13	86.7	0	0	0	0	0	0	0	15	13	15	13	0	0	0	0	0	0	0		
			2025	20	0	0.0	5	0	0	0	0	0	5	0	15	0	15	0	0	0	0	0	0	0		
			2026	21	0	0.0	6	0	0	0	0	0	6	0	15	0	15	0	0	0	0	0	0	0		
			2027	21	0	0.0	6	0	0	0	0	0	6	0	15	0	15	0	0	0	0	0	0	0		
			計	98	13	13.3	23	0	0	0	0	0	23	0	75	13	75	13	0	0	0	0	0	0		
	京都工芸繊維大 学	3×3教育制度の活用によるグローバルな次世代マテリアル人材育成プログラム	2024	4	3	75.0	4	3	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
			2025	15	0	0.0	15	0	13	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
			2026	19	0	0.0	19	0	14	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
2027			19	0	0.0	19	0	14	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
計			77	3	3.9	77	3	60	3	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
岡山大学	生体環境科学を通してWell-beingに寄与する日欧先駆人材育成プログラム	2024	21	7	33.3	21	7	15	3	3	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		2025	59	0	0.0	59	0	45	0	6	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		2026	74	0	0.0	74	0	60	0	6	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		2027	74	0	0.0	74	0	60	0	6	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		計	272	7	2.6	272	7	210	3	27	0	35	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
広島大学	日・欧州の海洋経済安全保障と持続可能性を支えるAI次世代人材育成プログラム	2024	10	16	160.0	0	0	0	0	0	0	0	10	16	10	16	0	0	0	0	0	0	0			
		2025	30	0	0.0	20	0	5	0	10	0	5	0	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0			
		2026	20	0	0.0	10	0	5	0	0	0	5	0	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0			
		2027	30	0	0.0	20	0	5	0	10	0	5	0	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0			
		計	110	16	14.5	60	0	20	0	20	0	20	0	50	16	50	16	0	0	0	0	0	0			
慶應義塾大 学	日欧が相補的に提供するLearning Agreement型国際共同学位プログラム	2024	40	36	90.0	25	20	0	0	0	0	25	20	15	16	15	16	0	0	0	0	0	0			
		2025	55	0	0.0	25	0	0	0	0	0	25	0	30	0	30	0	0	0	0	0	0	0			
		2026	55	0	0.0	25	0	0	0	0	0	25	0	30	0	30	0	0	0	0	0	0	0			
		2027	55	0	0.0	25	0	0	0	0	0	25	0	30	0	30	0	0	0	0	0	0	0			
		計	260	36	13.8	125	20	0	0	0	0	125	20	135	16	135	16	0	0	0	0	0	0			
総計				2024	144	124	86.11	87	64	49	24	4	0	34	40	57	60	57	58	0	1	0	0	1		
				2025	353	0	0	254	0	166	0	27	0	61	0	99	0	96	0	3	0	0	0	0	0	
				2026	384	0	0	284	0	193	0	19	0	72	0	100	0	96	0	4	0	0	0	0	0	
				2027	417	0	0	315	0	205	0	29	0	81	0	102	0	98	0	4	0	0	0	0	0	
				2028	382	0	0	280	0	178	0	21	0	81	0	102	0	98	0	4	0	0	0	0	0	
				計	1680	124	7.38095	1220	64	791	24	100	0	329	40	460	60	445	58	15	1	0	0	1	0	